

地域の協議体で 広がる、邑助け

地域でできることを考える
第2層協議体が4つの地域で発足し
取り組みが始まっています
各リーダーに話を聞きました

協議会を細分化 地域に合った活動を

長柄小区協議会（以下、長柄小区）は平成30年4月に発足しました。長柄小区には11行政区があり、47人のメンバーが活動しています。

長柄小区は構成する行政区が多いことから協議会全体で同じ活動を行うのではなく、4つの地区に分けて活動をしていこうと考えました。地区は篠塚の東部・西部、赤堀、狸塚で、各地区にサブリーダーを配置し、地域のニーズに合

長柄小区協議会リーダー
山路通則さん（水立大黒・23区）

わせた活動を進めていきます。

地域のニーズを掘り下げる手段の一つとして、アンケート調査を実施しました。私の担当する23区では、利用したいサービスとして『ふれあいサロン』という意見が多かったことから、高齢者の居場所づくりが必要と考え『邑助けカフェ』の開設を行います。

他にも、高齢者の見守り活動や新たな居場所づくりの実施を考えています。また、これをきっかけに、ふれあいサロンを実施する行政区も出てきました。

今後も調査から見えた、地域のニーズを活動の中に取り入れていきたいと思っています。

地域の元気な高齢者が、ちょっと助けを必要とする高齢者を助ける、そんな助け合いを広げていければと思います。

第2層協議体 長柄小区協議会 アンケート調査を生かして 地域ごとのニーズで邑助ける

見守りを希望する人が7割 マニュアルなどを使って見守りを

高島小区協議会（以下、高島小区）は平成31年1月に発足しました。高島小区には8行政区があり、39人のメンバーが活動しています。

協議会設立後は2か月に1度会員が集まり、地域の高齢者に対してどのような支援ができるか、またどのような援助が必要かを話し合ってきました。会議を重ねる中で孤独死の事案が複数報告されたことから孤立化の防止も兼ねて、いつでも誰にでも出来る「見守り活動」を中心に行うことにしました。

活動に入る前に、70歳以上の一人暮らしと夫婦のみの高齢者世帯、そして障がい者の一人暮らし世帯を対象に、アンケート調査を

実施しました。各行政区で対象となる世帯を洗い出し、見守りを希望するかどうかについて聞きました。

アンケートの結果は185人中、声掛けによる見守りを希望する人が80人、外からの見守りを希望する人が53人と対象者の約7割が見守りを希望するということが分かりました。この結果からも『見守り活動』の需要が高いことが分かりました。

また、誰でも同じような見守り体制がとれるように『見守り活動マニュアル』や『見守りチェックシート』などを作成しました。

地域の中で不安を感じ、見守りを希望する高齢者が多いのは事実です。まずは、散歩がてら近所の高齢者に声を掛けるくらい、身近なところから見守り活動が浸透していければと思います。

高島小区協議会リーダー
内田雅行さん（石打・20区）

第2層協議体 高島小区協議会 散歩がてら、近所への声掛けから まずは、身近なところから始める



自分が高齢になっても、住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らしていくためには、公的な制度のみでなく、ごみ出しや買物の支援など、地域での身近な助け合いが大切です。

町では、地域での助け合いや支え合いの体制をより進めていくために、平成28年から勉強会を開催。地域の問題や活動について情報交換をしてきました。そして平成29年に『邑助けネットワーク』という組織がスタート。町民が主体となり、地域での課題や困り事を解決する方法を探し、助け合いの活動を地域に広げていくことが目的です。

これまで邑助けネットワークでは、第1層協議体で町全体の課題を話し合い、地域ごとに活動を進める第2層協議体の設置を進めてきました。そして昨年、全ての小学校区で協議体が誕生しました。第2層協議体では、第1層協議体で話



今年の1月には、邑助けネットワークの意見交換会が開かれ第2層協議体の各リーダーが活動報告をしました

し合った町全体の課題を、より地域に合った形にするために、話し合いを進めてきました。そして、その地域ごとの課題を解決するための具体的な活動が始まっています。

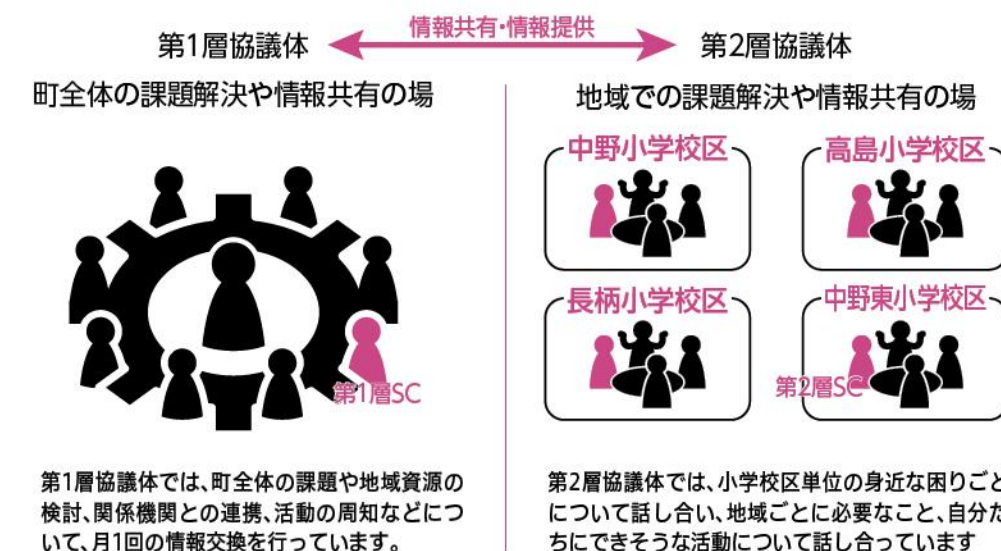
今回の特集では、第2層協議体の各リーダーから、各地域の今までの活動とこれからの展望を聞きました。

邑助けネットワークのスローガン

あなたの「困った、をみんなで
助け合い、支え合う町おうら

■ 邑助けネットワーク各協議体とは？

PICK UP



生活支援コーディネーター（SC）
生活支援コーディネーターは、各協議体と連携し、地域の支え合い、助け合い活動の創出、地域課題の把握、地域同士をつなぐ役割を担っています。いわば地域の調整役です。



住み慣れたまちで、誰もが安心して暮らせるように、地域で出来ることを考えている人たちがいます。邑助けネットワークの皆さんです。現在、地域単位での活動が始まっています。 問合せ 役場健康福祉課 47-5045

Close Up

邑助けネットワーク

地域で支え合い、邑助け合い

おたす



邑助けネットワーク
座長 長谷川芳雄さん
(前瀬戸宿・8区)

2025年には団塊の世代が75歳を迎え、全国の後期高齢者の割合が4人に1人となり、邑楽町もその影響から医療や介護などの社会保障費が増える心配されています。

邑助けネットワークは、そうした問題を地域で解決するため、平成29年2月に第1層が設立され活動が始まりました。

その第1層で座長を務める長谷川さんは「各学校区の第二層は昨年2月より具体的な活動が始まり、今では賛同する人や関心を持つ人が増えてきました」と話します。

第2層協議体では、地域に合わ

安心して暮らせる環境作りを 地域ごとに合わせた、邑助けで

れた長谷川座長。
地域にあった「邑助け
合い」がこれからも続
いていきます。

せた活動として、ごみ出し支援や見守り活動、買い物支援などを行っています。その一つ一つが元気な高齢者を増やしていくことに『気づく』きっかけと語る長谷川座長は「健康維持に一番役立つのは、人と会話をすることです。そのきっかけづくりが地域でできる邑助けです。ですから地域ごとに助け合いの形は違っていいんです」と話します。

最後に「私たちの活動が多くの皆さまに理解され、高齢者や障がい者など、地域の人たちが安心して暮らせるような環境づくりの一助になればと願っています。少しずつ活動の幅を広げながら、みんなで頑張っていきたい」と語っています。

邑助けに興味がある人は 第2層協議体 各協議会まで

地域のために、ちょっとした邑助けをしたい人は、各協議会までお問い合わせください。皆様のご協力をお待ちしています。

■長柄小区協議会

対象行政区 22～32区
問合先 山路通則 ☎090-7808-4342

■高島小区協議会

対象行政区 10、11、16～21区
問合先 内田雅行 ☎88-3685

■東小区お互いさまネットワーク

対象行政区 1、2、12～15、33、34区
問合先 渡邊孝治 ☎090-8876-8143

■中野小区協議会

対象行政区 3～9区
問合先 蟹和孝一 ☎88-5710

これから ずっと地域で 邑^{おたす}助け 合い

邑助けネットワークは、それぞれの地域単位での活動が始まったばかりです。地域での活動はそれぞれの地域で見つけ、模索している途中です。邑助けネットワーク第1層協議体で座長を務める、長谷川さんにお話を聞きました。4つの協議会に興味がある人は、各協議会までお問い合わせください。

3回の買い物ツアーを開催 周知方法は今後工夫が必要

東小区お互いさまネットワーク（以下、東小区）は平成31年1月に発足しました。東小区には8行政区があり、20人のメンバーが活動しています。

東小区では、出来ることをすぐに実行したいという思いから、以前から困り事として聞いていた、買い物ツアーを開催することにしました。1、2回目は社会福祉協議会のバスを利用し、中野の薬局やスーパーマーケットに行きました。3回目は会のメンバーが運転する車に分乗し、千代田町の大型ショッピングセンターへ出掛けました。

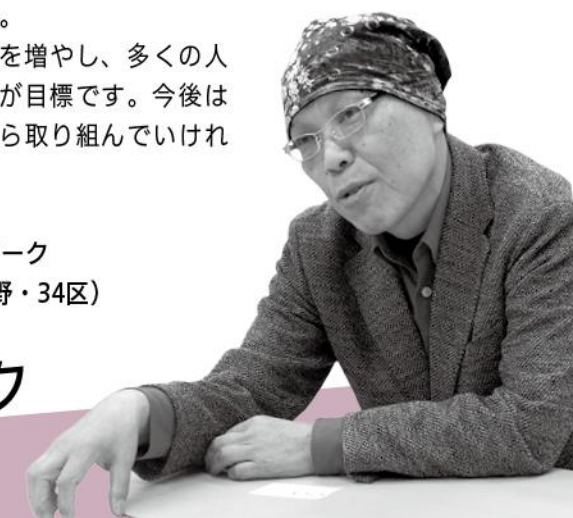
買い物先ではメンバーがカートを用意したり、買うものの相談に乗ったり、重い荷物を

運ぶなどの支援をしました。

参加者からは「普段買えない重いものが買えた」「商品を自分の目で見て買えた」などと好評の声をいただきました。メンバーからも「利用者が楽しく買い物をしている姿を見られてうれしかった」などの声があがり、利用者もメンバーも満足度が高かったようです。今後は、2か月に1回の割合を目指して買い物ツアーを開催する予定です。

今よりもっと利用者を増やし、多くの人に利用していただくことが目標です。今後は周知の方法を工夫しながら取り組んでいければと思います。

東小区お互いさまネットワーク
リーダー 渡邊孝治さん（明野・34区）



（東小区協議会） 第2層協議体 東小区お互いさまネットワーク 買い物ツアーで地域を邑助け 利用者もメンバーからも好評の声

ちょっとした見守りから始める 地域に根付くまで地道に

中野小区協議会（以下、中野小区）は平成31年1月に発足しました。中野小区には7行政区があり、20人のメンバーが活動しています。

協議会設立後は月に1度、メンバーが集まり地域の課題や問題を話し合ってきました。中野小区での主な活動として、見守り声掛け運動、安否確認、ごみ出し支援、健康だよりの発行などを行っています。

特徴的な活動としては、ごみ出しBOXの設置です。ごみ出しの支援を希望する高齢者宅の玄関前にごみ出しBOXを設置し、会の

メンバーが収集場所に持っていきます。これは高齢者の安否確認や見守りにもつながっています。

他にも、独自に健康だよりを作成し、高齢者への話題や知識の提供を行っています。さらに、畑に高齢者の集まる居場所を設置し、会話をする場所を提供するなど、少しずつ具体的な活動が始まっています。

しかし、まだ全ての行政区で活動が始まっている訳ではありません。出来ることから地道に活動を続けていくことが大切だと思います。また、この活動がずっと続き、自然と地域に根付いていくことが理想です。しかし、これには大変時間が掛かると思います。それぞれの地域が、地域ごとの課題を見つけ、できることから始めて、地道に続けていければと思います。

中野小区協議会リーダー
蟹和孝一さん（横町化楽・3区）

第2層協議体 中野小区協議会 お互いさまの心を忘れずに 地道な邑助け活動を続ける

